

# 新たな文化施設基本構想（素案）に関するアンケート調査結果

## 【調査対象】

長崎市登録文化団体 268 団体（回答 138 団体）

## 【調査期間】

平成 31 年 3 月 28 日から 4 月 9 日まで

## 【調査項目】（基本構想（素案）の中心部分となる次の項目）

- 1 新たな文化施設のめざす姿
- 2 新たな文化施設の方針
- 3 必要な機能と諸室の構成
- 4 基本計画の策定に向けて検討が必要な課題の整理

## 1 新たな文化施設のめざす姿

### 芸術文化と平和を世界と共有する

市民が芸術文化を楽しみ、芸術文化あふれる暮らしの喜びを体感するとともに、長崎で創られた芸術文化を世界へ発信し、世界の芸術文化が交わる場所をめざします。

また、文化芸術基本法の考え方にあるように、芸術文化は人々の心のつながりや、お互いのことを理解しあい、尊重しあう土壌を提供し、多様性を受け入れる心豊かな社会をつくるものであり、世界平和につながることを、長崎で共有し、世界へ広げていくことをめざします。

### アンケート結果



### 主な意見

- 芸術文化と平和とを一つにまとめる事はむずかしい。
- 芸術文化は平和問題とは切り離せないもの。是非、実現してほしい。
- 素案が現実となるのであれば言うことはない。
- 「日本」を通りこして「世界」に視点が向いているのに少しだけ無理な感覚がある。
- 自国の文化、その中での交流も大切にしたい。
- 「長崎で創られた芸術文化」の文言が排他的な感じを受けた。
- 市民が利用しやすい視点を強調すべき。

## 2 新たな文化施設の方針について

### 魅せる・触れる

鑑賞の場として、人々を魅了する芸術性と専門性の高い優れた芸術文化の公演や、市民が創り上げた作品など、多様な演目の公演を楽しむことができる場所にします。

### 創る・発信する

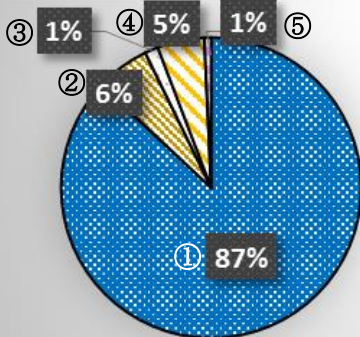
市民の芸術文化活動や創作活動を支え、海外とつながり、育んできた文化的資源を磨くとともに、長崎らしい芸術文化を創造・発信できる場所にします。

### つながる・育む

誰もがいつでも立ち寄ることができる開かれた空間とし、芸術文化を通して人が集い・つながり、世代や分野を超えた交流を育む場所にします。

まちとつながり、賑わいを生み、人とまちを育む場所にします。

### アンケート結果



① 概ね共感できる	120団体
② 概ね共感できるが、一部、見直しが必要	8団体
③ 全体的に見直しが必要	2団体
④ わからない	7団体
⑤ 無回答	1団体

### 主な意見

- 素案のように長崎らしさを発信できるような場所にしてもらいたい。
- 国内や長崎県内の文化団体とのつながりがほしい。
- 海外の前に日本でされている多くの文化を市民が体感することが先。
- 人々が引き込まれるのは本物を観た時。本物を上演する事の出来ない施設は望まない。
- 「長崎らしい芸術文化」という文言が気になる。今までとは違う世界基準のホールを望む。
- 「長崎らしい芸術文化」と安易に使っているが、その定義をしていないので、空疎な内容。

### 3 必要な機能と諸室の構成

#### 鑑賞・発表機能

芸術性と専門性の高い公演に対応でき、多彩な演目の公演が可能なメインホール  
基本的な設備を備え、先端技術を取り込んだ柔軟な対応が可能なホールを整備します。

#### 【客席関係】

- ・ 座席数は1,000～1,200席程度
- ・ 小規模な公演にも対応できるよう多層構造とします。

#### 【舞台関係】

- ・ プロセニウム形式
- ・ 音楽や演劇・舞踊等多様なジャンルの公演に対応できる舞台規模、舞台設備、搬入口等を備えます。

#### 創造支援機能

使いやすく、市民の創造活動を支える創造支援エリア  
市民の芸術文化活動を支援する創造支援諸室を整備します。

#### 【機能の例示】

- ・ 小劇場機能を持ち公演会場としての利用ができるリハーサル室、日常的な練習場所として利用できる練習室等

#### 交流促進機能

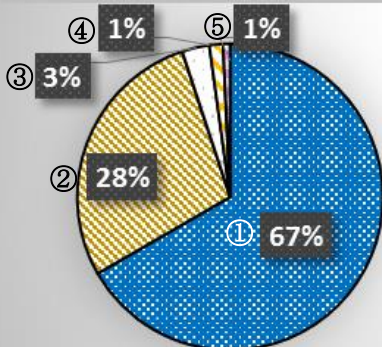
芸術文化で交流と賑わいを生み出すエリア

芸術文化を通して、市民や観光客の多様な交流の場となり、市民の主体的な交流活動のほか、多様なイベントが開催できる諸室やスペースを整備します。

#### 【機能の例示】

- ・ 市民ギャラリー、ミーティングスペース等

#### アンケート結果



■ ①概ね共感できる	92団体
■ ②概ね共感できるが、一部、見直しが必要	39団体
□ ③全体的に見直しが必要	4団体
■ ④わからない	2団体
□ ⑤無回答	1団体

### 主な意見

- メインホールの客席は経費をペイするためにも1,500席必要。
- 現在不足している座席数の1000~1200席のメインホールの必要性は概ね共感する。
- 多層構造は理解できないが300~500席程度の小（中）規模の公演ができる機能なら大変有意義。
- 少人数の団体・個人でも手軽に発表・表現活動ができ、市民が自ら発信できる場所を希望。
- 多層構造や小公演会場としてのリハーサル室は中途半端。中ホールと小ホールの両方が必要。
- 「音響に最大限配慮した準音楽ホール」としても評価されるものであって欲しい。
- 市民ギャラリー、ミーティングスペース等はとてもいい。
- ミーティングスペース等は不要。楽屋等の舞台に関する設備の充実を希望。

## 4 基本計画の策定に向けて検討が必要な課題の整理

### 施設規模及び必要諸室数等の検討

- 具体的に施設を配置していくために、施設の規模や必要な諸室の数、広さ、高さなどを整理する必要があります。
- 整理にあたっては、建設地の敷地面積、形状等も踏まえて建築面積、延床面積等を検討するとともに、利用者の動線、公演関係者及び出演者等の動線、大道具等の動線など使いやすさに配慮した検討を行う必要があります。
- また、誰もが安全に安心して、心地よく利用できるよう、十分に配慮した検討を行う必要があります。

### 事業費及び財源の検討

- 施設の建築面積や延床面積の概要が整理されることで、事業費の具体的な検討が可能になります。事業費に含まれるものとしては、施設整備費（建築・電気・空調設備・舞台機構・舞台照明・舞台音響設備工事等の建物工事及び外構工事等）、備品費、設計費等があり、それらの経費の試算を行う必要があります。
- また、必要な機能等を備えた施設整備のための財源の確保や補助金等を含めた外部資金導入の可能性について検討を行う必要があります。

### 整備手法の検討

- 公共が事業主となり「設計」「建設」「維持管理」「運営」の各段階において個別に発注を行う従来方式、PFI等の民間の資金やノウハウを活かした事業手法等、施設整備にあたって想定される手法を検討し、適切な手法の選択を行う必要があります。

### 管理運営の考え方の検討

- 新たな文化施設のめざす姿や方針を実現するためには、運営方針、運営方式（直営・指定管理）の考え方、運営組織の考え方などを検討・整理する必要があります。
- 芸術文化事業の展開や施設の運営・維持管理を専門的に実行できる運営体制を構築するために、必要な人材の育成及び確保に向けた検討を行う必要があります。また、経営的視点も考慮する必要があります。

### 施設意匠等の考え方の検討

- 建設地の歴史性や街並み・景観との調和への配慮、まちのランドマークとなる外観など、施設意匠等の考え方について検討を行う必要があります。

### 市民参画の手法の検討

- 使い勝手がよく、多くの市民に長く愛される施設となるよう、検討段階から幅広い市民が参画できる手法を検討し、実施する必要があります。

### アンケート結果



### 主な意見

- 余裕を持った構造にし、利用者が広さ感じられるスペースを確保してほしい。
- 誰にもわかりやすいユニバーサルデザインを意識してほしい。
- 雨に濡れない、段差がない、ホールまで直結した動線など主催者の搬出入の利便性を考えてほしい。
- 機能を優先し、その中で外観を意識した施設にしてほしい。
- 多くの人の意見を聞き「自分たちのホール」という愛着のある施設にしてほしい。

## 5 基本構想（素案）全般に対する意見

### 主な意見

- 長崎の状況、実態を踏まえた素案なので、この方向で進めてもらいたい。
- できるだけ早い着工を願う。
- 交通の便利な集まりやすい場所がよい。
- ホールづくりには、各分野で経験豊富で実績を持つ方に関わってほしい。
- 必要な人材の育成及び確保については、重要なので早い段階での検討をしてほしい。
- 長崎から世界へ、世界の文化を長崎に、開かれた窓口になるホールを期待している。
- 市の将来的な財政負担を考えると、今あるものを整備充実すべきではないか。
- 音楽ホールは既にある。文化交流施設以外の案はないのか。
- 劇場やホールは作らなくても良い。品格のあるギャラリーが欲しい。